

ETAJIMA

GoON!

Vol.37

江田島銘醸株式会社（江田島町）

すみおか 住岡 しょう 龍さん

【企業紹介】海軍兵学校設立後の明治40年創業、御用酒の醸造を始めた。江田島市内で現在は唯一の造り酒屋。昔ながらの麴こうじ蓋製法を代々受け継ぎ、米本来のうまみを引き出した酒造りを追求。海上自衛隊特別警備隊などコラボ商品も多彩で、昨年販売のG7広島サミット開催記念限定ラベル「同期の桜」も好評を博した。



日本酒づくりの魅力とやりがいを感じて

江田島町出身の住岡さん。代表取締役で杜氏を務める父・光男さんとともに、後継者として日々酒造りに従事する。例年12月から日本酒の仕込みを始め、4月末まで続く。5月から米焼酎を、それ以降は営業や蔵の整備に着手する。米を蒸す日は早朝4時半頃から取り掛かり、午前で済ませて道具を洗浄すると次の仕込みの準備。これらの作業を、両親と一緒にやっている。

づくりの魅力、やりがいを感じている」と住岡さん。2022年には三原市の米農家との共同開発で、食用米※のコシヒカリを「HIROSHIMA 渾路」として、地方創生を目指した日本酒を生み出した。食用と違う形で消費者の方に届けたい、米農家の思いを形にした。「小規模の仕込みもできるので、試験的なものなど対応できる。酒米とは製法が違うので挑戦してみたかった」と意欲を語る。



▲お土産に最適のミニ樽も販売。結婚式では二斗樽の注文が入る

客層は地元と市外が半々。自衛隊関係の方からの利用をはじめ、観光で訪れて店舗や商品をSNSに掲載するファンも多い。美麗なパッケージのコラボ商品を機に、新規購入も増えている。洗米や麹造りの道具を見直し、製造工程も一人でできるよう改良を加えた。既製品以外に道具も自作して、人手が要らない工夫を行う。「今まで受け継いだ味も守りつつ、自分の代でしかできない酒も造っていきたい」試行錯誤しながら、これまでと違った江田島銘醸の味を手がけたい、と住岡さん。「ちよつと辛口ですっきり飲めるものも増やせば」静かな口調に覗くその情熱に、期待せずにはいられない。



▲4代目・光男さんと一緒に。酒造りへの真摯な姿勢と熟練の技を受け継ぎます

店舗情報 所 江田島町中央2丁目27-1 営 9時～17時 休 不定休 (0823)42-0001

公式HP



フェイスブック



Instagram



※食用米…山田錦など日本酒に適した酒米と粒の大きさや構造が異なる。酵母の選定や精米など課題が多く、日本酒に不向きとされる。
広報えたじま 令和6年7月 20

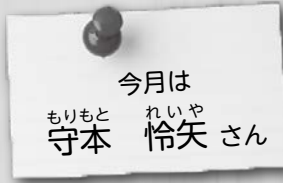
つむぐ通信

シリーズ連載 その98

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

【江田島市地域おこし協力隊】

国際交流支援員 大方 芳恵
えたじま里海ナビゲーター 守本 怜矢
観光事業総合プランナー 竹林 健一
観光事業総合プランナー 山田 京子



facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



こんにちは！ここ最近、ようやくこれまで江田島市で挑戦してきたことが、実を結び始めているなと感じている里海ナビゲーターの守本です。

今年もさとうみ科学館での江田島市全小学5年生が海に出て、海の生き物を学ぶマリナードベンチャーも始まり、こどもたちのワクワクにつられて僕も楽しめるありがたい毎日を感じています。協力隊としての1年目、2年目はこの制度が3年契約までという条件があるため、なんとか仕事を作らないといけない。という焦りもあり、色々な物事を楽しもうと頭で考える一方で、常に不安がつきまわっていたなと感じています。

地域おこし協力隊は、全国各地で採用され、地方を元気にする人材として期待していただけたありがたい制度です。しかし、地域の中で新しい仕事を作ったり、自分に合う働き口を見つけないと地域に残り続けることが難しい、少し変わった立ち位置でもあります。公務員のようなありながらも、個人事業主のような間の立場で、地域のためにと一生懸命働く人たちが、地域おこし協力隊になっています。

しかし、みんなが地域とうまくいく人とは限らず、満足な成果を残せず去ってしまう人も僕はみてきました。

た。江田島市は幸い、地域に定着できそうな良い成果を残している人が多く、江田島市の懐の深さ、温かさに日々ありがたみを感じています。

そんなことを考えている僕も協力隊3年目に入り、今では就任当初にあった、先行き不安のような感覚はなくなりました。それはありがたいことに、協力隊になった初年度から2年間、県立広島大学の経営学を学ぶ社会人大学院に入り、一生懸命に瀬戸内海の島の良さを引き出すビジネスを考える機会をいただいたからだと思います。

修学の結果、「里海不動産」という島嶼部専門の不動産事業という形が、自分として追い求めてきた働き方だと見つけることができました。そして、今はただそこに向かって突き進んでいるため、不安よりもワクワクする気持ちが勝っています。その背景には、さとうみ科学館でたくさん見せていただいた、「海と人の関わり合いによる豊かな環境や営み」があったからだと思っています。江田島市は、市全域が豊かな自然海岸に囲まれ、豊かな生物相が広がっています。だからこそ、江田島市は瀬戸内海の恵みを体感できる素晴らしい町だと思います。

今日、改めて僕は今、この瀬戸内海という世界でも数少ない内海に生



まれ育ち、美しい景色やさまざまな営み、歴史を見れていることに感謝しています。こうした環境は、後世にも引き継いでいきたいし、もっとこの素晴らしいさがわかる人たちに届いてほしいと思います。

先日、三原の佐木島に「NOTA HOTEL」という瀬戸内海の環境をリスペクトして作られた素晴らしい施設ができました。それは、地域にとっても、瀬戸内海にとっても、土地の可能性を大きく活かしていく大きな一歩だと感じています。こうした取り組みが、江田島市も含め、瀬戸内海各地で見ることができるよう未来を描けるような仕事をするためにも、これからもたくさんの方の挑戦をしていこうと思います！